変化という現実への企業の新たな立脚

令和５年１１月７日
黒田インターナショナルコンサルティング
黒田　毅

先端性の追求は、未来を与える。変化は、未来における現実である。

これらは各国における国家財政と通貨価値における固定現実の構築、先端産業から、第３次産業に至るまでの自由貿易システム下におけるカルテルとヒエラルキーの形成、これらは富の独占を永続する新しい世界における経済システムの構築へ移行するものである。

新しい経済システムへの移行は、デジタル化した、新しい経済の総括へ転換し、これらは新しい経済システムへの移行を行うものである。

これらは変化という現実が未来に存在することであり、全ての企業はそれらを否定できないのである。

企業が万全の体制において、変化への参加を行うことは、正しいマーケティングと自社の構築、高い効率基準における企業構築、製品における世界基準のクリアなど、変化における自社の生き残りは、企業努力とともに模索できるのである。

優れた企業は優れた製品とサービスにおいて需要を失わないのである。

これらは企業におけるコアコンピタンスの構築の必要性であり、明確な企業計画を求められるものである。

企業のスリム化とシンプル化は、高い効率性とともに、企業の強さを構築できるのである。

これらはグローバル市場が新しい現実を有することを理解すべきであり、それら未来という変化に対して現状の企業構築が、その変化への対応を自己に有することを必要とするのである。

これらは生き残りにおいて、企業の自立と独立が強さを与えることを意味するものであり、企業の振り分けは現実として否定できないのである。